



### 名 誉 会 員 追 悼

故 名譽会員 Dr. James B. Austin

本会名譽会員、元 U. S. スチール副社長 Dr. James B. Austin は  
1988 年 5 月 25 日逝去されました。

ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。

会長 八木 靖浩

### 編 集 後 記

“鉄と鋼”は鉄鋼協会における最大の情報提供手段です。最近の会誌は展望や解説、技術資料、論文、技術報告、その他から構成されています。今月も興味深い記事がいろいろ掲載されています。ところで、これらの記事の内、展望や解説、特にレビューなどは既存の情報を整理したものとも言えましょう。情報氾濫の現在、この種の整理された情報はなかなか貴重です。International Metals Review のようなレビュー専門誌が存在するのももつともなことです。レビューは読む人のみならず著者にも役に立ちます。研究や開発などの仕事がある程度一段落したら、あるいはこれから取り掛かる時に、これまでの情報を批判的にまとめてみるという参考になります。ただし、研究の場合、従来の研究に引きずられぬよう注意しなければなりません。

一方、論文や技術報告は新しく作り出された情報と言えましょう。もちろん、論文でも関連する従来の情報を整理して示す必要があります。しかし、論文ごとに詳しいレビューを載せていると重複する確率が高く

なり経済的ではありません。従つて、論文などでは単に従来の主要な情報を引用し、論文内容に直接関連する部分のみを簡潔に述べるにとどまつてしまうことがほとんどです（もつとも、既存の関連情報がほとんどないような独創的論文ではこんな問題はありません）。

それにしても、情報が現在の速度で蓄積されていくと、あまりにも膨大になつてしまい、必要な情報の入手が次第に困難になつてくるのではないのでしょうか。データ・ベースがあつても単にキー・ワードだけでは正確な情報を得るのは困難ですし、関連する情報があまりにも多いとうんざりして読む気もなくなつてしまいます。従つて、うまく整理された情報が今後ますます重要になるでしょう。また、既知の情報の組合せによつて新しい情報が生まれる可能性もあります。少なくとも、優れたレビューにも論文賞と同等の評価を与え、奨励し、整理された情報の生産をもつと増やすことが必要ではないのでしょうか。

(余計なことを考える一編集委員)

(I. O.)